応が陽性になることですので、健康診断で便潜血が陽性になったら大腸カメラでのチェックが必要になります。また今まで便通は問題なかったのに急に便秘傾向になるなども大腸がんの症状のことがあります。大腸の血液の流れが悪くなると虚血性大腸炎を発症します。下血が出たり痛くなったりします。大腸憩室は腹部の右側の上行結腸や左側の S 状結腸に多く発生します。炎症や穿孔による痛みや出血が主な症状です。風邪の時に感冒性胃腸炎になります。みぞおちが痛くなったり気持ちが悪くなったり下痢などを併発します。ウィルスが原因なので特効薬はなく薬で症状を抑えて経過を観察します。胆嚢に石がたまる胆石症は無症状の場合もありますが加痛といって刺すような痛みを示す場合には手術で胆嚢を摘出することになります。泌尿器系で痛い病気の代表は尿管結石です。激烈な痛みです。 小さな結石は自然排出を待ち、大きな結石は破砕療法で結石を小さくして排出させたり内視鏡手術で摘出したりします。女性では卵巣に嚢種ができるとねじれて卵巣捻転という状態を起こしやすくなります。子供から齎齢者まで発症します。卵巣だから下腹部の痛みかというとそうでもなく突然の腹部全体の痛みとして訴えることもあります。

④ 四肢の病気

静脈血栓が代表的な疾患です。下肢の深いところにある静脈の中に生じた血栓が心臓の近くまで大きくなると命にかかわることになります。いわゆるエコノミー症候群です。動作が少なく長時間同じ姿勢でいると下肢の血流が悪くなり血栓ができて、この血栓が肺の静脈をつまらせて生じる疾患です。血栓が小さければ症状がなく、ある程度以上の大きさになると呼吸困難・胸痛・倦怠感・動悸・冷や汗などの症状を示します。下肢の皮膚の静脈がうねるように腫れてくるのは下肢静脈癒です。下肢の倦怠感・痛みを伴います。加圧ストッキングが有効ですが、それでも軽快しない場合には外科的な処樅が必 要になります。

～次号 痛い病気・痛くない病気 (2) に続きます～

薬剤科からのお願い

薬剤科科長　宮 野 す み 子

～病院受診時にはお薬手帳の持参を！～

最近はお薬手帳をお持ちの方が多くなりました。が、受診時にお薬手帳を持参されていない場合があります。当院のみの受診で、薬は当院でしかもらっていない、という患者様でも、眼科や歯科に受診されて薬をもらわれていることはありませんか？

当院薬剤科では、検査のため、また手術のために、事前に現在服用中のお薬について伺うことがあります。その時、毎日飲まれている薬でも、とっさに名前が出てこないこ

とがあります。また、お薬の名前は、カタカナで長く、一文字違うだけで、まったく別の効果の薬の場合があります。そんな時お薬手帳を持参されていると、お薬の名前や規格、服用方法がはっきりわかります。

お薬手帳は、現在服用されているお薬を確実に確認するための、便利なツールの一つです。病院受診時には、お薬手帳の持参をお願いします。